

新刊紹介

図書館に置いてある最新本の中から
おすすめのをピックアップ。
バラエティーに富んだ
新刊を紹介します。

町立指江図書館 / 電話 0996(88)6500

「県境」&「境界線」の謎

浅井 建爾 著



合併もしないのに突然面積が2倍に
なった市。境界線の謎に迫ります。

じいちゃんさま

梅 佳代 著



全然知らない人たちのなかに吹き出して
しまったら、思わず泣けてしまったらす
るのはどうしてでしょう? 「家族ってい
いもんだ」と思わせてくれる写真集です。

町立鷹巣図書館 / 電話 0996(86)1111

長島文芸

明神俳句会

母郷出づ団栗の実をポケットに

淵脇 護

団栗の落ちて政権交代す

筑前 初市

どんぐりを固く握りて孫眠る

関 佳代美

指示仰ぐ体育座りや羊雲

迫口 君代

木犀や二人の農衣よく乾く

二階堂 妙子

雨あとのネオン瞬く暮の秋

大堂 早苗

吊橋を吹き抜けてゆく秋の風

山寄加代子

長島短歌会

親にのみ寡黙なる息子と稲を刈るこの寂しくも温
かき時

米尾 和子

ひめゆりの洞窟の前動かざり我と同期に涙あふる
る

坂之下 典子

プランターに植へたる胡瓜が海棠の枝にぶらりと
秋日に照れり

中山タマエ

断崖の岩場に鴉が巣ごもりて海荒れるたび群れて
騒がし

浜田美代子

昼暗き林道行けばひと所棚田開けて稲の香満つる

浜畑 松枝

田の道を歩けば稲の香いやまして農に生きたる母
懐かしむ

林 ヒロ

風風ぎて日の清すがと照る灘に貨物船方角西に変
へをり

本田 幸子

湯の宿へ誘ひの電話せし我に嫁の返事は明るく弾
む

松元 睦子

いち枚の狭き田なれど穫り入れの済めば落ち着く
老の気遣ひ

町田キクエ

鈴虫の清しき声を聞きて覚む亡夫の枕に頬よせな
がら

吉田 映子

秋空に風車は回り風匂ふ東支那海吾が町抱きて

市尾 操

夫逝きてよりひさびさに鰯を釣る手応へししみ
懐かしみをり

岩下 ち江

創生短歌会

天草の風光見晴らす吾が島の道の廻りに茅の穂そ
よぐ

岩下 房代

筆衝へ口で描きし花の絵のその明るさに心打たる

樫平 頼子

医者となり二人目の子の親となる息子は養子私の
息子

竹之内 重信

おかたの稲は稔りて用のなき水は水路に溢れて
流る

宮元 司

減反をしたる我が田に枯草の茂りて秋の風通いお
り

大塚 洋子

使わるる事なくなりて納屋隅に立てかけられし鋤
の錆びおり

野村 益信

冷えし茶を啜りいる時天井をねずみの走る音の聞
ゆる

石原百合子

上げ潮の川の面に浮びいる芥を赤く夕陽が照らす

山下 学

取りそびれし熟柿鳥に食べられて命に別状なけれ
ど悔し

村上 義彦

一般作品

俳句

山柿に群がる空の族かな

笹元 政美

寝ねてなほ日の匂ふなり干蒲団

桐野 眞実

短歌

欲張と何事なども分らずと良い事なくして終るも
のなり

町田 末則

幕末に藩を県にと名のみ変え世は移ろえど政治定
まらず

鷺出 成人

富士山の御来光待つ人びとの心ひとつに拍手の起
こり

中飯屋辰子

夏祭り年々賑う踊り子の変わる度ごと拍手わき立
つ

藤川ひみ子